



建築設備技術遺産

認定第 8 号 日本初のロータリーコンプレッサーを搭載したウインドクーラー 及びビル用マルチエアコン

管理者:ダイキン工業(株)

昭和 42(1967)年頃、カー(自動車)、クーラー(ルームクーラー)、カラーテレビのトリオが、いわゆる「3C時代」という第二次耐久消費財ブームを引き起こした。この3Cの一つ、家庭用クーラーが、日本で初めて登場したのは、空気調和・衛生設備技術史によれば、昭和 27(1952)年といわれている。発売当初は、機器効率や騒音などの点で課題があったが、その後の企業のたゆまぬ開発努力によって克服し、今日の家計用エアコンの歴史的第一歩を築いたのが、このウインドタイプのクーラーである。

今回の申請品は、昭和 33(1958)年発売された、日本で初めてロータリーコンプレッサーを搭載した製品の1号機である。従来のレシプロ式からロータリー式に切り替えることで、音や振動が少なくなり、小型化が進み外観も改善され、家庭用空調の新たな先駆的一歩となった製品である。

家庭用のマルチ技術は、オイルショックを契機にして、中小ビルの空調の省エネルギーをターゲットとしたビル用マルチエアコンシステムの開発に継承された。その結果、昭和 57(1982)年に、在来システムの空気や水の搬送動力の低減をはかった新たなビル空調システム「ビルマル」の発売に結実した。今回のもう一つの申請品は、昭和 59(1984)年に納入された、このビルマルの現物である。

この度申請された上記二つの製品は、今日の家計用空調、ビル用空調に革命的な進化をもたらし、近年の空調システムの省エネルギー化に大きく貢献してきたものである。いずれも将来の恒久展示することを準備中の貴重な現品であり、建築設備技術遺産として認定するに十分値するものである。



日本初のロータリーコンプレッサーを搭載したウインドクーラー
写真提供:ダイキン工業(株)

ビル用マルチエアコン(室内ユニット・室外ユニット)
写真提供:ダイキン工業(株)